

# 平成27年度現況報告書について

厚生労働省健康局  
がん・疾病対策課

# 小児がん拠点病院の現況報告について

- 「小児がん拠点病院等の整備に関する指針」（平成24年9月7日付け健発第0907第2号健康局長通知の別添）のⅣの2の（2）において規定
- 小児がん拠点病院は、毎年10月末までに現況報告書を厚生労働大臣に提出
- 提出された現況報告書の内容をもとに、指定要件の充足状況等についての確認を行う
- 現況報告書の内容の確認の結果、既指定拠点病院等が指定要件に欠くに至ったと認められるときは、その指定を取り消すことがあり得る

- 必須要件（A項目）：48項目
  - 全拠点病院で充足
- 努力目標（B項目）：18項目
  - 充足病院数の少ない項目

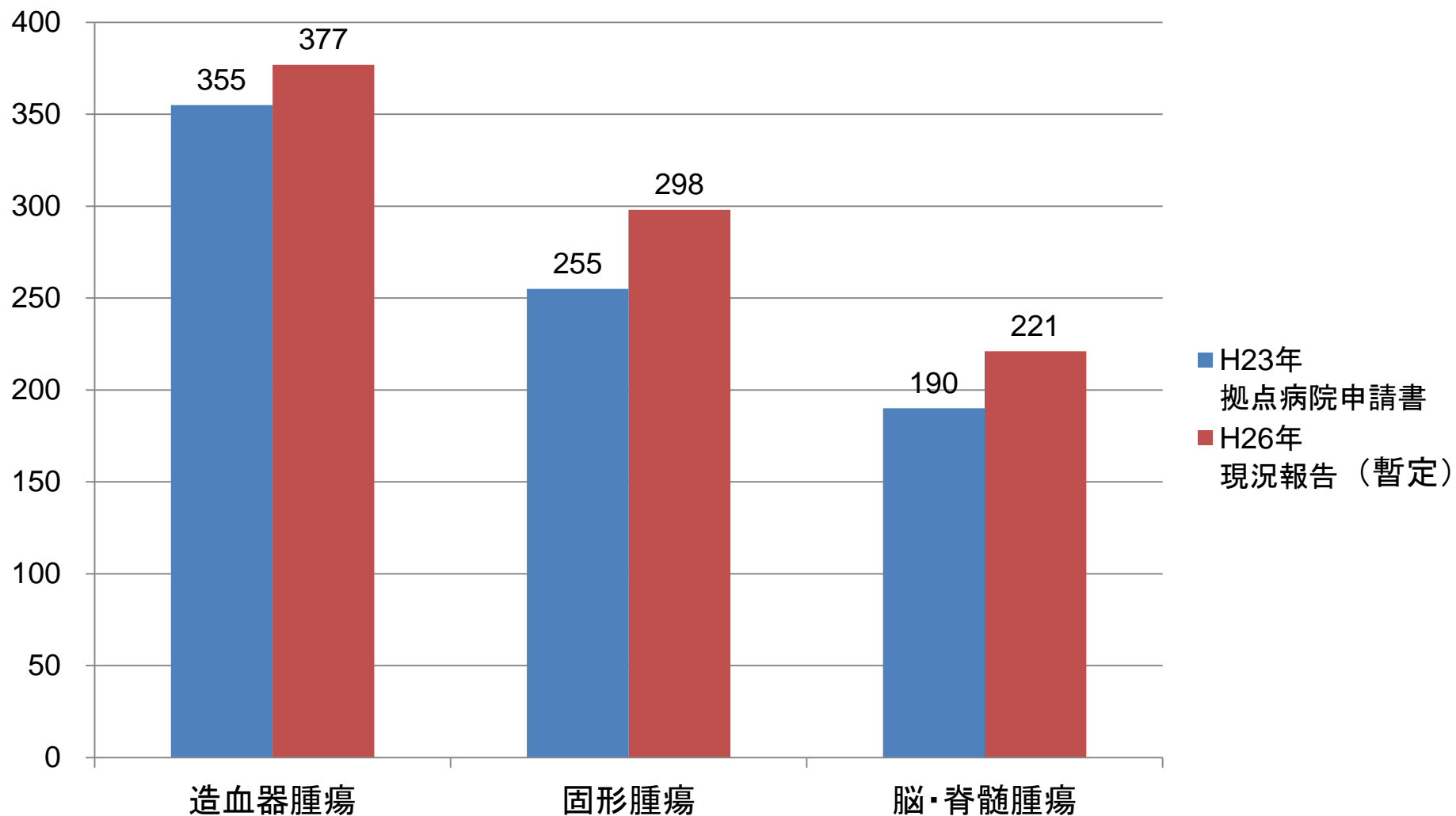
	充足病院数
患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	10
地域連携クリティカルパスを活用するなど、地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	8
患者の状況に応じて、地域連携クリティカルパスを整備している。	6

きょうだい保育や地域連携パスについて充足病院が少ないが、特に小児がん領域における地域連携パスについては再検討が必要か

# 拠点病院の診療実績

暫定

人



各疾患ともに拠点病院の診療実績はやや増加している

# 診療連携（Web会議等の活用の例）

暫定

「現況報告（別紙11）地域の医療機関との連携協力体制」より抜粋

1北海道大学病院	地方の関連病院に1回/月で専門医が出張し、地域に戻った小児がん患者の診療及び関連病院医師との連携を行っている。
2東北大学病院	成人領域も含めた東北がんネットワークに小児がん専門委員会を設立し、全小児がん診療病院が同時にカンファレンスを行うことが可能なインターネットカンファレンスシステムを構築している。この遠隔医療システムを利用し、合同カンファレンスや紹介症例の情報共有を行っている。
10京都府立医科大学病院	近畿・北陸・岐阜地域の関係施設（68施設）と連携し、患者の紹介や地域での診療依頼などの連携を行っている。インターネット会議を推進し、遠方の地域とのカンファレンス、患者情報交換などを行っている。
14広島大学病院	広島大学と広島赤十字原爆病院・山口大学医学部附属病院では小児血液・がん診療に従事する医師間で月に1回のインターネットを用いたテレビカンファレンスを定期的に開催し、診断、治療方針等を共有することで連携の強化を図っている。
15九州大学病院	九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会に属する19施設に、福岡県内の2施設を加えた合計21施設と接続するテレビ会議システムを整備している。毎月第4月曜日（16:00～17:00）にテレビ会議を開催しており、会議では症例検討や研修カンファレンス、毎回小児がんに関するテーマを1つ決めて討論会を行っている。

# 人材育成「研修プログラムの状況（別紙18）より集計

暫定

	プログラム名	医師向け	看護師向け	コメディカル向け	総開催回数
1北海道大学病院	日本小児血液・がん学会専門医研修プログラム	1			1
2東北大学病院	小児科研究プログラムinみやぎ 日本小児血液・がん学会専門医研修プログラム	2			2
3埼玉県立小児医療センター	小児血液腫瘍疾患研修(2年、8~10か月)	2			2
4成育医療研究センター	小児血液腫瘍フェロー研修 レジデント(小児科後期研修医)研修 東京医科大学後期研修	2			3
5東京都立小児総合医療センター	クリニカル・フェロー(小児血液・腫瘍コース)「東京医師アカデミー(注)」最上級コース。 サブスペシャリティレジデント(小児血液・腫瘍コース)「東京医師アカデミー(注)」小児科・新生児科の各専門領域を学ぶコース。	2			2
6神奈川県立こども医療センター	小児血液・がん専門医研修プログラム	1			1
7名古屋大学病院	短期小児がん研修プログラム 長期がん研修プログラム 脳腫瘍研修プログラム 脳腫瘍研究	4			4
8三重大学病院	日本小児血液・がん専門医研修プログラム(三重大学小児科) 三重大学小児血液・がん短期専門研修プログラム 免疫学的小児白血病診断研修プログラム(医師、検査技師向け研修) チャイルドライフスペシャリスト体験プログラム	3*		2*	4

\*1プログラムは医師及び検査技師対象

看護師、コメディカル向けの研修が少ない

# 人材育成「研修プログラムの状況（別紙18）より集計

暫定

	プログラム名	医師向け	看護師向け	コメディカル向け	総開催回数
9京都大学病院	小児血液・がん専門医養成コース 小児血液・がん専門医強化コース 大学病院とマグネット病院との機能連携を基盤とした高度医療人養成プラン	3			3
10京都府立医科大学病院	小児血液・がん研修プログラム 小児血液・がん専門医研修プログラム (小児外科)小児がん研修プログラム (小児外科)小児がん専門医研修プログラム	4			4
11大阪府立母子医療総合センター	血液・腫瘍科レジデント 小児外科レジデント ホスピタルプレイ士養成コース	2		1	3
12大阪市立総合医療センター	小児総合診療コース 小児総合診療コース 小児血液・がん専門医育成コース 小児がん・緩和ケア短期研修コース	4			4
13兵庫県立こども病院	日本小児血液がん専門医研修施設研修プログラム 日本小児科学会専門医研修プログラム小児科専攻医コースA 日本小児科学会専門医研修プログラム小児科専攻医コースB 小児血液腫瘍短期研修	4			4
14広島大学病院	広島大学病院日本小児血液・がん専門医研修施設 研修プログラム 広島大学病院臨床心理士 小児研修コース 中国四国ブロック小児がん看護プログラム	1	1	1	3
15九州大学病院	小児がん診療病棟実習(初期) 小児がん診療病棟実習 小児がん診療専門病棟実習 小児がん診療専門外来実習 KPI	5			5

看護師、コメディカル向けの研修が少ない

がん対策は、「がん対策推進基本計画」(平成24年6月)に沿って進めている。基本計画では、平成19年度から10年でがんの年齢調整死亡率を20%減少させることを全体目標としているが、このままでは目標達成が難しいと予測されている。このため、平成27年6月1日に開催された「がんサミット」で内閣総理大臣の指示を受け、厚生労働省が中心となり、基本計画に示されている分野のうち、①遅れているため「加速する」ことが必要な分野、②当該分野を「加速する」ことにより死亡率減少につながる分野に絞り、短期集中的に実行すべき具体策を明示した「がん対策加速化プラン」を策定することとした。プランの3つの柱は「がんの予防」、「がんの治療・研究」、「がんとの共生」である。

## 実施すべき具体策

### 予防

- ① **がん検診**
  - ・ 精検受診率等の目標値設定
  - ・ 市町村、保険者の受診率及び取組事例等の公表
  - ・ 保険者に対する検診ガイドラインの策定
  - ・ 検診対象者等へのインセンティブの導入
- ② **たばこ対策**
  - ・ FCTCや海外のたばこ対策を踏まえた、必要な対策の検討
  - ・ 厚生労働省としては、たばこ税の税率の引上げを継続して要望
  - ・ ラグビーW杯、東京オリンピック・パラリンピックに向けた受動喫煙防止対策の強化
- ③ **肝炎対策**
  - ・ 患者の自己負担の軽減を通じた、重症化予防の推進
- ④ **学校におけるがん教育**
  - ・ 「がんの教育総合支援事業」の実施 等

### 治療・研究

- ① **がんのゲノム医療**
  - ・ ゲノム医療実現に向けた実態調査
  - ・ 全ゲノム情報等の集積拠点の整備
  - ・ 家族性腫瘍の検査・治療等の検討
- ② **標準的治療の開発・普及**
  - ・ 高齢者や他疾患を持つ患者への標準的治療の検証
- ③ **がん医療に関する情報提供**
  - ・ 患者視点で簡単に検索できる拠点病院検索システムの構築
- ④ **小児・AYA世代のがん、希少がん**
  - ・ 小児がん医療提供体制、長期フォローアップ体制等の検討
  - ・ AYA世代のがん医療等の実態調査
- ⑤ **がん研究**
  - ・ 「健康・医療戦略」・「医療分野研究開発推進計画」及び「がん研究10か年戦略」を踏まえた研究の推進 等

### がんとの共生

- ① **就労支援**
  - ・ 拠点病院における仕事の継続を重視した相談支援の実施
  - ・ ハローワークにおける就職支援の全国展開、事業主向けセミナー等の開催
  - ・ 産業保健総合支援センターの相談員による企業等に対する相談対応等の支援
  - ・ 企業向けのガイドラインの策定及び普及啓発
- ② **支持療法の開発・普及**
  - ・ 支持療法に関する研究の推進
- ③ **緩和ケア**
  - ・ 緩和ケアチームの実地研修の実施
  - ・ 患者の苦痛のスクリーニング方法の事例集の作成
  - ・ 地域連携のための訪問看護師の育成 等

避けられるがんを防ぐ

がん死亡者の減少

がんと共に生きる



## 2. 治療・研究 ～がん死亡者の減少～ (3) がん医療に関する情報提供

がん患者や家族が必要とする情報のうち医療機関に関する情報を提供するため、拠点病院等の院内がん登録や現況報告で得られる情報を活用し、希少がんや小児・AYA（Adolescent and Young Adult）世代（思春期世代と若年成人世代）のがんも含め、診療実績や医療従事者の配置等、患者や家族が必要とする情報を簡単に検索でき、医療施設同士の比較も可能なシステムを構築し、広報・周知する。



小児がんについても、H28年夏を目途に公表していく予定

## 2. 治療・研究 ～がん死亡者の減少～

### (4) 小児・AYA世代のがん・希少がん対策

#### 1) 小児・AYA世代のがん対策

#### <実施すべき具体策>

小児・AYA世代のがん患者に対し、専門的な治療を提供することのできる施設の整備や、情報提供、晩期合併症や後遺症などの長期フォローアップ体制、がん患者の療育・教育・就労環境の整備を充実するため、以下の施策を実施する。

- 「小児がん拠点病院連絡協議会」等を活用し、小児がん拠点病院の専門的医療の提供、地域医療機関との連携、相談支援、情報提供等、小児がん医療提供体制や長期フォローアップ体制等のあり方を検証する。
- AYA世代固有の詳細な課題を明らかにするため、AYA世代のがん医療等に関する実態調査や研究を進める。

# 今後検討すべき課題の例（案）

- **小児がんの診療提供体制（集約化）**
  - Web会議の活用や医師の定期訪問により地域の医療機関で診療を受けられる患者
  - 医師不足等の理由により拠点病院の受診が必要な患者
- **長期フォローアップ**
  - 目的の明確化（診療、研究）
  - 実現可能性を考慮した計画の立案・実施
- **A Y A世代のがん対策のあり方**